

会 議 結 果 報 告 書

令和8年10月21日

会議の名称	令和8年度 第3回舞鶴市文化事業企画懇話会	
種別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開催日時	令和8年10月15日（水） 19時00分 から20時20分	
開催場所	舞鶴市役所 別館6階612会議室	
出席者	<委員>椿委員長、山本副委員長、西村委員、橋本委員、 山口委員、坂本委員 <事務局>横川課長他1名	
議題	(1)令和9年度事業リニューアル提案について ・「舞鶴市展」 ・「MAI FES.」 (2)その他	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	
傍聴者数	なし	
審議結果 及び 主な意見等	会議録のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 文化・国際課 TEL （ 0773 ） 66 - 1019
-----	--

令和8年度 第3回 舞鶴市文化事業企画懇話会 議事録(要約)

日時: 令和8年10月15日(木) 19:00~20:45

場所: 舞鶴市役所 別館6階612会議室

出席者: 椿会長、山本副会長、坂本委員、西村委員、橋本委員、山口委員
(事務局)横川課長、坪内主幹、佐藤

会議内容:

1. 開会
2. 議題:
 - (1) 令和9年度事業リニューアル提案について
 - ・「舞鶴市展」
 - ・「MAI FES.」
 - (2) その他
3. 閉会

■ 舞鶴市展について

【委員からの主な意見】

- 全体方針・見せ方
 - ・「誰に・どう届けるか」という目的(軸)を定め、5~10年先を見据えて段階的にリニューアルしていくべき。
 - ・入選作を絞って格式や魅力を上げるのも大切だが、展示作品を減らしすぎると出品者の家族などの来場者が減ってしまうため、クオリティ向上と集客のバランスが課題。
 - ・あえて部門で分けず、明確なコンセプトのもとで会場全体を回遊できる展示演出も面白い。
- 演出・空間づくり
 - ・照明演出の工夫(暗闇の活用等)や、プロ作品のインスタレーション・プロジェクト・マッピングなど、メリハリのある空間演出ができる。
 - ・地元(カキ殻等)を使った立体アートなど、子どもや家族連れが興味を持ちやすい工夫も効果的。
- 若者の巻き込み・体験価値
 - ・高校美術部などにチラシ制作や「アートルート」づくりで関わってもらい、デザインに統一感を持たせる。
 - ・制作プロセスや思いを知ることで作品の味わいが深まるため、そうした体験の機会を増やしたい。
 - ・会館の自由利用権といった魅力的な副賞のや、事前アンケートの実施も一案。

【市のまとめ】

- 基本スタンス

新規・若者の呼び込みに向け時代に合わせたリニューアルは不可欠だが、急激な変更で従来の出展者・来場者が離れないよう、これまでの良さを活かしながら段階的に進める
- 来年度の具体的な取り組み
 1. 発信・広報: 若者向け広報の強化、申込書への「作品への思い」記入欄新設(制作プロセス・想いの発信)。
 2. 展示・空間: 照明器具の追加等による展示の工夫、体験イベントの継続。
 3. 関連企画: 事前アートイベントで制作した作品の市展内での展示検討など。

■ MAI FES.について

【委員からの主な意見】

- 特徴的な仕組み・目的設定
 - ・単発のイベントで終わらず、担当者が変わっても継続できるシステム(持続可能な仕組み)として定着させることが大切。
 - ・開催目的やゴールを明確にし、募集段階で全体像をしっかり固めておく必要がある。
- 中高生の主体性と大人のサポート
 - ・中高生が「自分たちのイベント」として主体的に取り組める形が理想(Web会議の活用等)。
 - ・ただし、全体をまとめる大人(実行委員長役)のサポートや、企業とのコラボ(子どものアイデア×大人の実現力)も重要。
 - ・丁寧な個別の声かけや、翌年のシード枠をかけたバトル形式など、参加・継続のモチベーションを高める工夫が必要。
- 「本物」への接触と劇場体験
 - ・プロのゲスト招待や公演招待券などの特典により刺激を与える。
 - ・「たんけんアリオス」のように、プロのサポートのもとで裏方(照明・音響等)を体験したり、子ども自身が脚本を手がけたりと、劇場に親しむ仕掛けを取り入れたい。

【市のまとめ】

- 今年度の取り組み: 司会を西舞鶴高校の放送部に依頼。
- 今後の展開: 今年度の開催結果(アンケート等)を踏まえて日程等を検討。裏方体験など、小・中・高の様々な世代が関われる「子どもたちによる、子どもたちの文化祭」として育てていく。